

第3回 藤沢市都市マスタープラン策定協議会 議事要旨

日 時 2025年(令和7年)6月3日(火) 午前10時00分
場 所 藤沢市役所 本庁舎6階 6-1会議室

1. 開 会

2. 成立宣言

3. 議 事

(1) 前回策定協議会の振り返り

(2) 藤沢市都市マスタープランたたき台について

- ・はじめに
- ・ビジョン編
- ・プラン編
- ・プロセス編

4. その他

5. 閉 会



事務局	<p>【1 開会】</p> <p>【2 成立宣言】</p> <p>(会議成立の宣言)</p>
事務局	<p>【3 議事】</p> <p>(議事1「前回策定協議会の振り返り」を説明)</p>
A委員	<p>○質疑応答</p> <p>・アクティビティについては休日を中心に聞かれているようなのですが、平日については聞いていないのでしょうか。</p>
事務局	<p>→平日についてはそういった質問を設けず、通勤・通学先を聞くという形で、平日の行動について聞いています。</p>
A委員	<p>・藤沢の良いところは、朝に海でサーフィンをすとか、普段の平日の時間に近くでスポーツをすとか、友達と一緒にバーベキューすとか、そういったところだという気がします。ご説明いただいた内容だと、休日はまとめて買い物に行くということだと思いましたが、ショッピングに行くのが一番多く、藤沢の良いところが聞けていない気がしました。</p>
会長	<p>・前半の話は、この後の議事で具体的な対応が出されてくると思います。市民アンケートについては、意外な結果はあまり見受けられないように思いました。</p>
B委員	<p>・良いところは理解できたのですが、課題についても知りたかったと思いました。</p>
事務局	<p>→記述意見をご覧くださいますと、各地区で渋滞であるとか、歩行環境で危険を感じるというような交通に関するご指摘が多く見られたと思います。また、北部の活性化という意見も見られました。</p>
会長	<p>・大きく見ると、南の方と北の方で魅力や生活の充実度が違うということがはっきりと出ており、これは藤沢の都市構造の課題の一つで、都市マスタープランの中でどのように考えていくのか、ということがあると思います。</p>
C委員	<p>・資料1の11ページの藤沢市の魅力の部分の確認ですが、「一部の地区で特に高い項目」について、肯定的な回答の割合が平均に比べて高いという理解でよろしいですか。例えば藤沢地区では「働きやすい」という肯定的な回答の割合が平均に比べて高かったということで良いのでしょうか。</p>
事務局	<p>→ご指摘の通りです。</p>
C委員	<p>・つまり、藤沢地区では「働きやすい」、善行地区では「クリエイターが活躍しやすい」、湘南大庭地区では「職場が近い」と思っている人が多いという理解で良いのでしょうか。</p>
事務局	<p>→地区全体の肯定的な回答の割合に比べて、概ね10%ほど高い地区を記述し</p>

C委員	<p>ています。したがって、圧倒的に高いとまでは言い切れません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活圏の話ではなく、藤沢市の魅力を聞いているのですね。どこにお住まいの方が、何に対してどう魅力を感じているのか、混乱していたので確認をさせていただきました。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜこういう声が出ているのかを整理することが必要で、例えば、善行地区で「クリエイターが活躍しやすい」という意見が多いことには、どういう背景があると推測されますか。
事務局	<p>→判りかねるとというのが正直なところですよ。(藤沢市全体に対して各地区にお住まいの方がどう捉えているかを問うことがこの設問の趣旨であり、お住いの地区のことを問うものではありません。)</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういった拠点があるとかではないのですか。片瀬地区で「歴史文化的資源が充実」しているというように、他の場所の理由は概ねわかります。アンケートの結果を都市マスタープランとして受け止めるには、その背景や理由を考えないといけないと思いますので、次の議題でも議論したいと思います。
事務局	<p>(議事2 「都市マスタープランたたき台について」を説明)</p>
事務局	<p>○質疑応答</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本日欠席のD委員より事前に意見を4点頂戴しております。1点目は、「資料2」の4ページの「(2)社会展望」について、「高齢化について触れているが、アクティブシニアといった元気で活動的なシニアの存在とその活動を支える都市を示すことが重要ではないかと考える」といったご意見です。 ・2点目は9ページの「ビジョン編」の「(1)基本理念」と10ページの「(3)都市ビジョン」について、「基本理念には『働く・住む・憩う』という自立型の都市では必須となる要素が含まれていることは確認できるものの、『学ぶ』という要素が隠れてしまっていると思う。慶應大学等の大学の存在もあり、高齢化社会を踏まえた学び直しの観点からも、『学ぶ』という要素の扱いを検討したほうがよい」といったご意見です。 ・3点目は43ページの方針6の「連携と挑戦の都市づくり」について、「多様な交通手段間の連携充実という記載があり、そのことを踏まえると、モビリティハブについても記載した方がよい」といったご意見です。 ・4点目は「資料2」にはございませんが、「供給処理施設系のごみ処理場やリサイクル施設について建替等の予定があるのであれば、記載した方がよい」といったご意見です。
E委員	<p>(「はじめに」と「ビジョン編」についての質疑応答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来都市構造の5つのレイヤーに関して、交通体系のレイヤーが一番上にありますが、これを都市基盤というレイヤーに置き換え、交通システムだけ

事務局	<p>ではなく、それを支えている道路や、道路の下部に入る上下水道、ガス、電力等のインフラ、学校や公民館、その他の公共施設といった箱物も含めたインフラのレイヤーとして考えた方が良いのではないのでしょうか。インフラの老朽化が課題として大きく挙げられていたので、それに対応するための一つのアイデアです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その上で、都市基盤のレイヤーを自然空間のレイヤーと市街地の構成のレイヤーの間に入れて、自然空間、都市基盤、市街地の構成、地区拠点、都市拠点という順に説明した方が、市民アンケートからもわかる通り、緑豊かな環境が大事という傾向もあるため、まずは自然空間を保全していくということを強調し、その上に人工的な都市基盤があり、土地利用があり、拠点がある、というような説明の仕方がスムーズかと思いました。 <p>→今回、都市構造をレイヤー化、階層化しているということがあるため、順番については少し考えたいと思います。また、交通体系レイヤーの中に都市基盤を含めて表現することについては、ご意見を踏まえて検討させていただきたいと思います。</p>
E委員	<ul style="list-style-type: none"> ・将来フレームにおける土地利用のフレームについて、「産業系土地利用は維持します」ということが明記されていますが、自然的土地利用を維持する方針を打ち出してほしいと思います。自然的土地利用には、農地や山林、河川、公共用地の中の公園等が含まれていると思いますが、これらを減らさないという方針です。藤沢市では2035年まで人口が増えると推計されていて、世帯数はその後も少し増えるかもしれませんが、その一方で集約型都市構造を作ることですので、増える分は拠点で受け入れると考えれば、自然的土地利用をまずは維持して、今度は増やすという方向に転換できると思います。
事務局	<p>→自然的土地利用のフレームについては、人口が今後も増加する推計ではありますが、今のところ、新たに都市を拡大して人口を獲得するという考え方は持っていないため、現段階では自然的土地利用と都市的土地利用の調和というような表現しております。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・都市基盤に関しては交通体系のレイヤーで表現する以外に、別の形で追加する可能性もあるということです。インフラといっても種類があって、ネットワーク系のインフラは交通体系にかなり近いものですが、学校のように分散して配置されるものは、市街地の構成や拠点のレイヤーと関係する可能性もあると思いました。
事務局	<p>→いただいたご意見をもう一度咀嚼して、検討しなくてはいけないと考えていますが、もとより都市拠点をつくってネットワークしていくという考えがあり、それを交通体系という言葉で示してきています。緑についても一つのネットワークとして捉えている中で、将来都市構造を描いてきています。確かに、交通体系に都市基盤を入れるという視点もあるかとは思いますが、</p>

E 委員	<p>一方で、ネットワークではないインフラをどう築いていくのか、どこに書けるのかという点で、市街地構成の中でそういったニュアンスにしていくのか、新たに違うレイヤーをつくるのか等、検討したいと思います。</p> <p>レイヤーの順番につきましても、ご指摘のようにベースに自然空間を置くのか、どちらかという俯瞰して見ていた中で、緑をネットワークで見せていくという元々のコンセプトを、今回の改定でどのように考えていくのか、改めて検討していきたいと考えています。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ご検討いただきたいと思います。インフラが老朽化していて、それが問題だと冒頭で言っているの、それに対して都市構造の部分でも答えていく必要があるということだと思います。 ・D委員からもごみ処理場などのインフラの意見がありましたが、そういったものも入ってくる可能性があります。今後のインフラをどう考えるかは都市計画の大きな問題なので、レイヤーの順番の意見とともに大事だと思います。言い方は悪いですが、今までは都市開発があつて、残された自然空間という感じの考え方で、先に生活や住宅がありました。もしかすると、今後はそれが大きく発展する時代が来るかもしれません。最初に何を持っていくのかは藤沢市の姿勢を示すことになるのではないかと印象です。ご検討ください。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市長が掲げているスローガンや標語に「インクルーシブ」「サステナブル」「スマート」という3つのキーワードがあると思いますが、多様化やITといった時代を迎える中でわかりやすい言葉だと思います。この3つのワードが入ってないのには意図があるのでしょうか。
事務局	<p>→単語自体は入っていませんが、その考え方は踏まえています。「サステナブル」については持続可能ということで、これまで築き上げてきたまちの基盤を持続させていく、そして磨き上げていくといった観点を入れております。「インクルーシブ」については、多様な方々の活動などをとりこぼしなくとりこんでいくという趣旨の観点を入れております。</p> <p>「スマート」についても、資料に「スマートシティ」という単語もありますが、IT化というような観点を入れております。</p>
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「スマート」、「インクルーシブ」について、わかりにくいと言われるかもしれませんが、あえて日本語にするよりも標語的にはわかりやすい印象があります。
事務局	<p>→資料2の43ページの方針6の「連携と挑戦の都市づくり」の中に「スマートシティに向けた取組」を示しています。ここで「スマート」については比較的わかりやすく示しているので、補足としてご説明いたしました。</p>
A 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2の10ページの「都市ビジョン」の構成について、前回の協議会でも質問が出ていて、「自立するネットワーク都市」の「自立する」という言葉について整理しますとのことだったと思いますが、どのように整理された

事務局	<p>のでしょうか。その際の意見が、「持続可能という言い方をした方がいいのではないか」という趣旨で、私もそう思ったのですが、「自立」という言葉を使われる意図を教えてください。</p> <p>→「自立するネットワーク都市」については、前回の協議会では「自立」とはこういったこと、「ネットワーク」を「連携」に置き換えまして、「連携」とはこういったこと、というご説明をしました。これに加えて、前回は改定骨格をご説明した中で、多様な人とのつながりや多様な活動の促進というような観点があり、人や活動についても「自立」「連携」を促進できればというご説明をしました。このように、人に対して「都市ビジョン」をあてはめ、人を「自立」させるというのが少し押し付けがましいのでは、というご意見をいただきました。そこで、改めて考え直し、「自立するネットワーク都市」については、あくまで都市が自立してネットワークをしていくものとして、これが展開されることにより、それを基盤として人の活動やつながりが活発化されるといったことを意図し、記載しています。持続可能といった表現については、「自立し続け」という文言の中で、持続可能性があるまちづくりをめざすこととしています。</p>
A 委員 事務局	<p>・都市が自立するというのとはどういうことですか。</p> <p>→都市が自立するということについては、他の都市などに依存せず、都市として機能分担、機能連携をしながら、都市拠点や地区拠点の個性を生かし、都市を発展させていくということだと考えています。</p>
A 委員 事務局	<p>・他の都市に依存しないということの意味は、市外には買い物に行かない、市外には働きに行かない、ということですか。または、エネルギー供給等に関してですか。</p> <p>→市外でないと買い物ができないまちではなく、まずは自立、独立して都市としての機能が高まっている状態が前提としてあり、一方で、買い物の際などは、交通軸・連携軸を使って他都市との連携を図るというものです。自立していないとそういった連携も図れないということで、まずは自立するということを書いています。</p> <p>元々、藤沢市では「自立するネットワーク都市」ということを掲げて都市づくりをしてきましたが、藤沢市という都市が全て自立するというのではなく、また、どこかに寄りかからないと立ってられないということでもなく、一定の必要な機能をしっかり市の中で持っていきたいという意味があります。全ての機能を藤沢市で帰結するのではなく、一定の広域的な機能は都市間で連携・分担して成り立っていくことが基本になります。その中で、藤沢市という都市が連携、ネットワークすることが他都市にとっても魅力的であること、連携したくなる都市であることも大事な点の一つです。働く場、買い物をする場、住む場としても魅力的で、一定のものを揃えた上で、それがきちんとネットワークして機能分担できるだけの魅力を持っていきたいということであり、「自立するネットワーク都市」として、他都市とも機能分担ができる都市になりたいという意図で、描いているところです。</p>

<p>A 委員</p> <p>会長</p>	<p>これを、今回の改定でどう考えるかは、整理しきれていないところがありますが、当初の計画策定から 25 年が経ち、ネットワークのあり方が変わってきている中で、ネットワークとはどういうことを整理し、藤沢市がめざす新しい「自立するネットワーク都市」をもう少し突き詰めていきたいと考え、整理をしているところです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・趣旨は概ね理解しました。ニーズに応えられるポテンシャルを持っているということだと思います。「ネットワーク都市」なら良いと思うのですが、意見として申し上げます。 ・ネットワークという言葉が、藤沢市の都市の中での機能分担や連携という意味と、少し広域で見て、大きなネットワークの中で藤沢市が役割を果たすという意味の両方を指しているの、非常にわかりづらかったです。 ・自立というのは、説明があった通り、藤沢市だけで完結するという意味ではなく、ある程度の機能がしっかりと都市の中にあると同時に、個性や藤沢らしさといったものがあるというのが大前提だと思います。中だけ見てもわからなくて、外との関係の中で見出される内容で、都市の中がどのような構造になっているかという話と、もう少し引いてみた時、藤沢市がどういう存在なのかという話の両方を表そうとしているのだと思います。都市マスタープランの一番の目標の部分なので、つまずくと多くの方に誤解されてしまう可能性があるため、もう少ししっかり解説して、曖昧にしない方がいいと思います。
<p>A 委員</p> <p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「場のビジョン」について、非常に興味深いと思いついて伺っていましたが、この「場のビジョン」が計画にどう落とし込まれていくのでしょうか。 <p>→「場のビジョン」は「都市のビジョン」を実現していく場のイメージを多様な主体と共有し、身近なまちづくりからも築き上げる「自立するネットワーク都市」をめざすということで、具体的には 11 ページ以降のイラストとセットで示す想定をしています。魅力的な場を築き上げることをビジョンとして掲げることで、共に創っていくまちづくりを示していきたいという狙いです。各イラストのタイトルは、もう少し共感や共有がされやすい文言に表現し直したいと考えています。</p>
<p>A 委員</p> <p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 21 ページの「将来フレーム」の土地利用について、カーボンニュートラルと並んで国際的に求められている生物多様性条約への対応が触れられていません。その中で、非常にわかりやすい 30by30（サーティバイサーティ）という目標があり、2030 年までに生物多様性を実施する空間を 30%確保するというものです。当然ながら藤沢市の土地利用のうち自然的な土地利用は 30%も無い状況になっていますので、これをいきなり達成しますというようなことはできないのですが、藤沢市がそういう目標に対してどのような貢献をするのかを考える必要があると思います。 <p>→30by30 については、現在、緑の基本計画や生物多様性地域戦略の改定検討</p>

	<p>が同時に進んでいるため、こちらの指標は進行管理の中で掲げようと考えています。将来フレームの中で扱うかは、ご意見も踏まえ、生物多様性や緑を所管する部局と調整を図りながら、詰めていければと思います。</p>
A 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「将来フレーム」の環境について、カーボンニュートラルに向けて 2030 年に 46%削減と、すごい勢いで進める目標ですが、そもそもこれを達成できるのかどうかと、市としてやれることは限られてくる中で、例えば公共施設に関してはこの目標を達成できるペースで進んでいるのか、教えていただければと思います。
事務局	<p>→カーボンニュートラルに関しては、現行計画でも「低炭素社会構築に向けた都市づくり」として方針に掲げている中で、進行管理として実績、目標値の管理を行っており、今のところ、前年度比ペースでは着実に削減化が図られていることを確認しています。一方、46%削減に向けて、今後どのように取り組んでいくかについては、環境部局と調整しながら進める必要があり、進行管理の中で把握に努めているところです。</p>
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 17 ページの「将来都市構造」の 3 つ目に「地区拠点」と「身近な拠点」があり、「身近な拠点」はスーパーなどを想定しているのかと思いますが、いまひとつわかりませんでした。17 ページでは「地区拠点と身近な拠点」を 5 つの要素の 1 つと言っていますが、14 ページでは「地区拠点」が消えて、「身近な拠点」のみになっています。また、「身近な拠点」については、他の要素と同じように図に示していくのでしょうか。こういったお考えか、教えてください。
事務局	<p>→資料 2 の 14 ページのレイヤーの説明の中で「地区拠点」が消えている点は誤植です。申し訳ありません。「地区拠点と身近な拠点」を 1 つのレイヤーとして示したいと考えております。</p> <p>「身近な拠点」を図化するかについてですが、「身近な拠点」は集約型都市構造の形成の中で、駅や市民センターを中心とした「地区拠点」の考え方は従来通り持ち、身近な生活で必要とされる「身近な拠点」の考え方を追加するものです。具体的には、高齢者や子育て世帯の方々が必要とする、いきいきサポートセンターや市民の家といった施設を想定しており、市内に 40～50 か所程あるため、図に落とし込むこと想定はしておりません。必要とされる圏域に応じて配置されることが望ましいというような、あり方を示すところで留めたいと思います。</p>
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20 ページの就業人口と交流人口について、藤沢市は観光客が多いため、交流人口の増加が非常に重要だと思います。さらに、藤沢市の観光地としての特徴は、日常的・継続的に訪れる人が多いということなので、そういう人々に継続的に訪れてもらうような内容も含めると良いと思います。
事務局	<p>→就業人口と交流人口の観点については、ご意見をいただいた通り、観光の優</p>

<p>G 委員</p>	<p>れた地域なので、多様な観光資源を活用して藤沢市の魅力を高めることに今後も継続して取り組んでいけたらと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「場のビジョン」のイラストについて、具体的にイメージしやすく良いと思いました。未来的な車が停まっていて、江ノ電の辺りが拠点になり、こういった車がまちの中を回って、途中で手を挙げたら乗せてくれて、江ノ電の駅等に行きやすいようなイメージがあります。そうなれば嬉しいのですが、現状のまちを見ると、新しくできた自転車道は自転車と車との接点が厳しく危ないものであるといった問題もあります。現実と「場のビジョン」との間に、もう少し具体的で便利になるイメージや提案があると良いと思います。アンケートがあまり沢山に行き渡っていない、ということがありました。問題点をよりあぶり出せると良いとも思いました。
<p>事務局</p>	<p>→イラストは少し突き抜けた形の表現で、わくわくできるような、少し未来的な形にしています。こんなことがあったらいいなという、少しやれば実現できそうな未来のように示せると、それに向けてみんなで動いていけるのではと考え、色々な方に興味を持ってもらいたいという想いで作っています。ご意見は、その間の手順の充実化が必要だということだと思うのですが、都市マスタープランの中で謳えるかは難しいところがありますが、計画策定後の進行管理や、事業を進める中で取り組めたらと思っています。</p> <p>自転車の課題に関するご意見については、市民意見や郷土づくり推進会議の中でもいただいているので、受け止めて、引き続き検討していきたいと思っています。</p>
<p>H 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・17 ページの「身近な拠点」について、いきいきサポートセンターや市民の家の話がありましたが、住民の集まりである町内会から脱退する人が多いと聞いています。私が住んでいる地区の方々は協力的で、町内の人へのサポートを充実させていこうと取り組んでいます。市での取組はありがたいと思いますが、市民発信のものを市としてとりこんでいく、期待していく部分があってもいいのではないかと思います。
<p>事務局</p>	<p>→いただいたご意見は今後反映していきたいと思っているところで、従来計画ではどちらかというと公共施設の配置的な考えを持っていましたが、「身近な拠点」としては、市民の家や町内会館といったところも掲げられてくる中で、市民の方がよく使うかどうかという観点や、自分たちで作る身近な場も今後増えていったら良いという想いがあります。市で公益的な施設をどんどん作るという時代ではなくなっているため、そういうトーンは落として、身近な必要とされる場を作ろうとしたときに、うまく進むようなサポートや支援をするという観点で「身近な拠点」について進めていきたいと思っています。</p>
<p>H 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場所にもよるとは思いますが、そういう意味では、町内会で集まれる場所が充実していません。我々の町内会では、以前使っていたところの老朽化が激し

事務局	<p>く、住まなくなった古家を改築して利用しているのですが、そういうところに市からのサポートがあると、地域としても集まりやすくなり、より発展する方向に向かうのではないかと思います。</p> <p>→今後、箱物を用意する流れは難しいところがありますが、今も空き家を利活用していただいております。人口減少を目前とした中では、よりそういった利活用の仕方が増えてくると思います。建物の稼働率を見ながら、うまく使うといった観点で、なるべくお金をかけずに、新しい箱物は極力つくり、うまくフォローできるようなシステム、仕組みを構築できればと思っています。</p>
C委員	<p>(「プラン編」についての質疑応答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここまでのやり取りを「プラン編」に反映するには、落とし込まれていないといけないことが沢山あるのではないかと思います。 <p>26 ページの方針 1 の「住みよさを育む都市づくり」の中で、「多様な生活圏におけるきめ細やかなまちづくり・場づくりの支援【強化】」と文言では書かれていますが、どう具体化されるかがわかりません。</p> <p>「都市ビジョン」の 11 ページ～13 ページの「場のビジョン」のイラストについて、先ほどの質疑を見てネットワークとは自立であると思いましたが、このイラストは、生活圏における日々の生活の延長の絵を見せていて、「場のビジョン」の中核ということであると、場の連続性が読み取れません。</p> <p>また、交通体系のレイヤーの部分に、キーワードとして「歩きたくなる」という言葉があって、圏域のところでも「なるべく近いところに沢山」というような表現があり、「ビジョン編」の言葉に生活レベルの話と少し俯瞰している話が混在していて、読み取りづらいです。「都市プラン」の方針 1 の「住みよさを育む都市づくり」などでは、生活レベルの話になっていくのだと思いますが、「都市プラン」のスケールと「都市ビジョン」のスケールが変に重なっている印象があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、ネットワークと場の連続性というのは違います。 <p>「身近な拠点」については、行政が公的につくる市民センター等に頼るだけでなく、住民が創発的に使っていく場も生活圏域の中で必要とする拠点を考えたい、というような見え方がありません。なぜかという、17 ページの書き方で、「身近な拠点を配置し」とあり、「配置する」という表現でここに作ろうという計画を示唆し、同時に創発的なことが読みとりづらくなっています。住民の方々と一緒に拠点となりそうな場を発掘し、一緒に活動することで居場所化してもらおうということを、都市マスタープランの中でどう捉えようとしているのか、トーンダウンができていません。できるとしたら、「都市プラン」の方針 1 の「住みよさを育む」のところかと思いますが、印象はとして、人の暮らし、ケア、生活圏等を総合的に見たときに、気になる項目が色々あったので、整理していただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な指摘だと思います。ビジョンとプランの関係であり、全体からの計画
会長	

A 委員	<p>的な話と、市民の方から生み出されるようなボトムアップ的な話、都市全体に設定できるものと、生活圏に近い場所で考えるもの、これらが縦横に折り込まれているので、わかりづらくなっています。場というものを挿入しているからだと思いますが、私も整理をする必要があると感じています。1つ1つを読むとわかることもありますが、全体としてどういう構造になっているかがわかりにくいということだと思うので、整理をしていただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「場のビジョン」のイラストは具体的ですが、プランのそれぞれのところにいくつか入ってくる図は、国の資料の掲載になっています。ここに具体的なイラストを入れる方がイメージしやすくなるのではないかと思います。 ・「ウォーカブルなまちづくり」という言葉が、39 ページの方針5の「美しさに満ちた都市づくり」に出っていますが、方針1の「住みよさを育む都市づくり」にも、交通手段の多様化という話があります。整理の問題だとは思いますが、方針5で書かれているバリアフリーやユニバーサルデザイン、ウォーカブルという話は、どちらかというとな方針1に書くのではないかと思います。 ・32 ページの方針3の「自然と融合する都市づくり」について、基本的に書かれていることはその通りですが、流域治水や雨水の貯留浸透策の推進という部分で、今後、気候変動による降水量の観点や、流出抑制あるいは浸透という観点が非常に重要となります。今回、【強化】には入ってないのですが、もう一步踏み込んで、面的に開発が行われる場合、そこからの流出自体をニュートラルにするという考え方の開発を求めていく、というような踏み込み方もあるのではないかと思います。
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・方針4の「強さとしなやかさを持つ都市づくり」は、都市防災のことが書いてあるセクションですが、ここに気候変動やヒートアイランドに伴う夏の暑熱問題への対策を追加すべきではないでしょうか。方針3の「自然と融合する都市づくり」にも関係しますが、例えば、クーリングシェルターの確保など、真夏に屋外で過ごすことが難しくなる中で、室内空間を充実させるといった、自然的ではない対策もあるので、方針4に入れるべきだと思います。いずれにしても、暑熱の問題に対して何らかの都市計画的な対応ができるよう、方針を定めていただければと思います。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・40 ページの方針5の「美しさに満ちた都市づくり」の【強化】に、「公共施設への負荷を考慮した適正規模の住宅立地の検討」とあります。これまでも「公共施設への負荷を考慮した適正規模」でやってきている中で、これからも住宅開発があるとは思いますが、仮に、その開発が今の時点で許容されたとしても、今後人口が減っていく中で本当に必要なのかという視点が、この表現だけだとわかりづらいです。持続可能な住宅のあり方、住宅供給のあ

	<p>り方を、しっかりと考えてないといけないということだと思うので、少し表現が違う気がしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、方針5かはわかりませんが、サステナブルな市街地の更新のあり方を、もう少し強く打ち出しても良いと思います。環境的な持続可能性だけではなくて、社会的な面もかなり大きいと思いますので、お願いします。実際に藤沢市で様々な更新が起こる中で、都市マスタープランでどう考えるかということが、かなり強いメッセージになって効いてくると思いますので、検討いただきたいと思います。
C委員	<ul style="list-style-type: none"> ・32ページの「自然と融合する都市づくり」の「1）骨格的な水・緑空間保全再生」では保全・再生、「2）市街地における身近な水・緑空間の創出促進」では創出ということですが、農地に関連して1）の方で「農地の維持、交流空間としての活用」、2）の方で「自然的・交流空間としての農地の保全・活用」が掲げられています。1）は営農的な保全であり、2）の方はそれを開放して市民菜園化するような、少し違った農地の使われ方や、今まで宅地だったところを農地化していくことなどをイメージしているのだと思いますが、考え等があれば教えてください。
事務局	<p>→「1）骨格的な水・緑空間保全再生」は営農的な観点で、どちらかというとし街化調整区域の農振農用地等での農業の維持保全などの観点、「2）市街地における身近な水・緑空間の創出促進」は、生産緑地を含めた街中にある農地、より身近な都市にあるべきものとしての農地という観点で、農地のあり方や使い方について2つに分けて考えています。</p>
C委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「2）市街地における身近な水・緑空間の創出促進」における農地の保全・活用については、少し文言を変えた方がよいと思います。校庭の芝生化も進んでおり、この項目の屋上・壁面緑化、身近な生活空間の緑化等の推進というところに、併せて菜園化のような記載があると良いと思います。環境教育として文科省で推進していると思いますし、ヒートアイランド効果で子供たちが外で遊べないなどの問題も、芝生にすることによって温度が下がるので、園外活動や校庭での体育ができるというように、大事な対策なので、方針4の「強さとしなやかさを持つ都市づくり」などと絡めて加えると良いと思います。
A委員	<p>（「プロセス編」についての質疑応答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「場のビジョン」に対応して、「場づくりのプロセス」というものがありますが、これが記載されることによって具体的にどう変わるのですか。あまりこれまでと変わらないような気がします。
事務局	<p>→今回は「（1）多様な主体によるまちづくりの推進」の項に「場づくりのプロセス」を設けます、ということに留まっていますが、地域で場を必要としている方とのつながりを持って、それをサポート、支援していくことや、そ</p>

<p>A 委員 事務局</p>	<p>ういったことに使える場所の連携等を詰めて、スキーム化してお示しすることを予定しています。この中で描き切るというよりは、今後の取組の中で、場づくりの支援、サポートをしていくと捉えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の方が集まる場所や市民の方のニーズがあるものはイメージできませんが、例えば、場のイメージに出てくるような交通結節点やインフラに依存するもの、グリーンスローモビリティのようなものも同じ考え方ですか。 <p>→あり方として、広場空間や道路空間の有効的な使い方が色々と示されていて、そこが賑わいや活動の拠点となってくるということで、活力につながる部分になりますので、様々な事例を見ながら流動的に取り入れる視点で考えていきたいと思っています。インフラに関しても場のビジョンで示していければと思います。</p>
<p>I 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・49 ページの「(2) プラン実現のためのプロジェクトの推進」の「5) 公共施設の適切な維持管理と再編」、「6) 広域交通体系の整備」についてですが、道路整備に関しては神奈川県「みちづくり計画」というのがあって、それに基づいて道路を計画・整備しています。平成28年に改定した「みちづくり計画」が、今年度が最終年度になります。来年度から新たな「みちづくり計画」ということで、現在改定作業を行っているところです。この計画は幹線道路について、ある程度見通しをつけて整備していくという整備計画と、既存道路の拡幅や改善などの活用計画、そして維持管理計画の3部門に関して、来年度以降どこを集中してやっていくかという計画です。10年計画ですので、これが策定された段階で、この計画と都市マスタープランの長期ビジョンに向けた取組を、うまく連携させていければ良いと思っています。神奈川県状況を踏まえて、協議しながらやっていければと思いますので、よろしくお願いいたします。
<p>B 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場づくりについてご相談なのですが、こういう貴重な機会に参加して、市側の考えや先生方の意見も聞くことができました。こういうことを、もっと広く市民にご理解いただき、リテラシーを高めることや、場づくりをした場合にシンポジウムをすることなども盛り込んでいただくとありがたいと思いました。
<p>事務局</p>	<p>【4 その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回会議は2025年（令和7年）7月31日（木）午前10時を予定、場所は本庁舎6階の6-1会議室 <p>【5 閉会】</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>